

百人委員会メンバーとの会談における輿論代議士発言の要旨

1. 開発優先ではなく、自然とうるおいのある都市環境を守るこれが大切になってきたと認める。
2. 現臨港線計画決定以前、道、開発局に対して、運河を保存し、代替道路として市港線の上に高架の道路を作るよう働きかけたが結局、現計画になってしまった。
3. 現在の計画に基づいて行政手続きは全て完了し、しかも工事が着手されているので見直しは不可能だ。
4. 道々臨港線の問題は運河問題ではなく道路問題である。
5. 横路知事は私に対しても、市長に対しても現計画を進めると言っている。
6. 仮に知事が見直しを進めようとしても道議会が自民党が多数でありたまたに予算の審議はストップされるだろう。したがって知事が見直しをすることはあり得ない。
7. 市長に対するリコール請求は筋ちがいてあり、まずは知事に向けるべきだ。
8. リコール運動は地元には混乱を起すだけであり是非やめてほしい。
9. コミュニティマート構想は西武の再開発構想とも一致するものであり、これで運河地区再開発は可能だ。
10. 博覧会期中の工事凍結について知事が市長に合意を求めたなどということはない。
11. 博覧会期中の工事続行については特別に感概もなく、やむを得ないというほかはない。